

## 平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	空き店舗の活用による地域の活性
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人望月まちづくり研究会 (長野県佐久市望月106)
事業区分	(1) 地域協働の推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	669,775円 (うち支援金: 451,000円)

### 事業内容

- ① イベントやワークショップ実施
  - ② 観光案内所・お休み処・地域交流の場機能整備
  - ③ 情報発信の場
  - ④ 和式トイレの様式化
  - ⑤ 旧式トイレ埋設
  - ⑥ 換気扇、給湯・給排水設備改善・不凍栓不備対策
  - ⑦ 自宅と店舗の電源分離
  - ⑧ 掲示板、看板設置
- 土、日、月曜日隔週でプレオープンし事業効果の実証



【交流拠点ますや外観】

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 店舗の清掃に多くのボランティアが参加 40名  
親子で参加のイベント実施。写真展1週間、映写会  
90名、コンサート40名、ハンドベル体験2回
- ② ソーシャルメディア活用  
(専用フェイスブック立ち上げ)
- ③ 街道歩きの人との交流があった。来年の連休に街道  
歩きの計画で下見の人が利用の約束がとれた。  
月見の講座街歩き参加者80名
- ④ 開館日トータル20日実施
- ⑤ 個人の手作り作品展示販売
- ⑥ 榊祭りの期間歴代祭りのポスター展実施

### 【目標・ねらい】

- ① 様々な世代の交流の場
- ② 情報交換発信の場
- ③ 中山道の観光案内の場

### ※自己評価【B】

【理由】交流拠点として、存在価値を見いだせた。様々な人脈が集結出来たが、今後の運営方法の確立が課題。行政のサポートが望めない場合、活動資金捻出や事業方法に課題がある。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

拠点の存在価値の実証が出来、地域に刺激を与えることが出来た。更に関わりを持てる人を増やし、気楽に立ち寄れる井戸端会議の場づくり、情報収集発信、世代間交流のイベント企画等手段を構築していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある